



■密度とスケールを利用して空間いっぱいに居場所をつくる。

広々としたロビー空間を生かして、空間いっぱいに居場所が広がる休憩スペースが良いのではないかと考えました。ただ居場所を広げすぎるとかえって寂しげな印象になりがちです。そこで普通よりも一回り大きな既存のソファを空間いっぱいにバラバラと並べます。そうすることで、広々とした空間のスケールが一回り小さく感じられ、明るく軽やかな印象になるのではないかと考えました。一見して密度はとても高いのですが、椅子自体が大きくシンプルなので、賑やかだけれどザワザワした印象にはならず、落ち着きと開放感溢れるロビー空間となります。

■過去と未来を繋ぐ工夫と素材

これまでとこれからを繋ぐ街のロビーとして、既存のソファを庁舎内から集め再利用します。県内の伝統工芸である播州織で張り替えることで、伝統工芸や地元デザインの発信拠点となります。若手のクリエイターや市内のデザイン系の学生などと協働できたらと考えています。

■人と人を繋げる形

瀬戸内の海のように広がるソファの上に、船跡のようにカーブを描く細長いテーブルを掛けます。それは港町が描いてきた人と人を繋げる形です。一つながりの大きくて細長い「環テーブル」が広々とした空間に拠り所をつくり、広い空間を共有する体験をつくり、人と人を繋げ、市民に愛されるテーブルとなります。

■家具リスト

- 既存イス 65脚 (表布張り替え)
- 環テーブル 1台

